

第1回定例理事会

5月15日
本部会議室
出席理事・監事28人

庄司会長「発信力」を重視

理事候補に和久田守彦氏

冒頭、庄司孝輝会長は、「パチンコ&パチスロフェスタ2014」に触れ、「秋葉原と幕張メッセ合わせて7000人以上を集めた。ニコニコ超会議3のサテライトブース(幕張メッセ)を見たら、若い人たちがパチンコ、パチスロ1台に7、8人列をなし、本当に楽しんでた。若い人は面白いものについては素直に飛びついてくるんだな」という感想を持った。同時にこの業界のPR活動のあり方を考えさせられた。これから遊技産業界の「発信力」が重要なキーワード

ードになるだろう。若いファンを創出しスリープ層を呼び戻して、この業界が再び勢いを取り戻すように皆様と一緒に頑張っていきたい」と述べた。

監事候補は林和宏氏

任期満了に伴う役員選任に関する件が上程された。全機連推薦枠の理事(副会長)安藤利彦氏が退任し、後任の理事候補に監事の和久田守彦氏(株愛知商会)、監事候補に中部遊商理事長の林和宏氏(株ライズ)を全機連が推薦してきたことが報告された。また、監事の平澤黎哲氏から健康上の理由で退任の申し出があったことが報告された。その他の役員は全員留任とし、新任の和久田、林両氏を含めて6月5日の第25回通常総会(定時社員総会)で承認を受ける。直後の臨時理事会で会長、副会長を互選して新体制が決定する。な

お、空席になっている理事1、監事1の補充については、会長一任として総会までに決める。

平成25年度は黒字に

平成25年度事業報告書及び収支決算書(案)と、26年度事業計画書及び収支予算書(案)が承認された。25年度事業活動収入は当初予算に比べて会費収入が伸びず、取扱主任者研修事業収入も3年に1回の大きな更新時期の翌年ということで想定内だが落ち込みを見せた。

一方で有価証券の運用益が出たこともあって、事業活動収支差額は若干の黒字(1240万円)となった。26年度予算では、会費収入は25年度実績をベースに抑え、取扱主任者研修事業収入は25年度が底だったため若干多めに計上した。25年度予算と比べて事業費支出が約3000万円増、管理費は若干の

減、事業活動支出全体で1650万円程度の増と、ある程度余裕を持たせる形にした。事業活動収支差額は1170万円の赤字を見込んでいる。

活動収支は3区分に

一般社団法人への移行により、正味財産の公益目的と認められた部分を消化していく形になるため、事業活動収支が事業別に提示された。内容は、①公益目的支出計画事業 ②その他の事業(共益事業) ③法人会計(管理費)の3項目に区分されている。

今年度の公益目的支出計画事業費は、健全化適正化事業費6100万円、社会貢献・環境対策事業費2000万円、さわやか福祉財団寄付10万円——となる。健全化適正化事業費は広報誌の無償配布、PSIOとセキュリティ対策委員会運営、リカバリーサポート・ネットワーク支援等。社会貢献・環境対策事業費は社会貢献・環境対策委員会運営、嵐山町共生の森緑のきずな・ボランティア(東日本大震災被災地での海岸防災林の植林)等となっている。

共益目的事業としては研修等事業(取扱主任者講習、店長等講習)、





一般社団法人に移行後、はじめて開かれた定例理事会

広報誌刊行事業、その他事業等と
なっている。

専門委員会・プロジェクトチーム(P.T)のうち、依存対策P.Tを新設することが承認された。P.Tは既存の中古機流通、風営法を含めて3つとなる。

新規入会を申請した正会員2社(ホール、その他)、賛助会員3社の入会を承認した。これで5月15日現在、正会員335社(ホール110、機械69、販売108、景品10、その他38)、賛助会員74社、計409社と団体加盟1(同友会)となった。(17ページに新規入会会員)

支部運営会議

会員状況、獲得で協議

マル特賛助会員の扱いも

日遊協支部運営会議が5月15日、第1回定例理事会を前に本部会議

室で開かれ、7支部から支部長ら11人が出席した。正会員への身分変更が遅れているマル特賛助会員と会費滞納会員のそれぞれの扱い、及び新規会員の獲得等が議題となった。

マル特賛助会員は、新規会員獲得の暫定措置として平成21年12月から運用されている。本来は正会員として加入すべきホール、メーカーなどの事業者について、賛助会員(年会費10万円)として1年間の試行人会を認め、日遊協活動に参加して理解を深めてもらった上で改めて「正会員」として入会してもらうことを目的としている。

これまでに12社がマル特賛助会員として試行人会し、3社は正会員に身分変更した。1年経過していない4社と退会した1社を除き、1~4年経過したが身分変更していない4社の扱いを協議した。「支部には支部の内部事情があると思うので、支部が改めて当該事業者に意思確認をした上で、常識の範囲内で扱いを判断したらどうか」という意見が出された。

主な出席者は次の通り。(敬称略)
松谷明良(北海道)▽谷口久徳(東北)▽西村拓郎、茂木欣人(東京

都・関東)▽山口悟(中部)▽福井章、國澤良幸(近畿)▽後藤信行(中国)▽樋口益次郎、有川裕之(九州)▽庄司孝輝(会長)▽篠原弘志(専務理事)▽伊東慎吾(常務理事)▽石原雅文(オブザーバー)

遊技産業新経営者会議

「福島学」と「危機管理」

2講演に30人が参加

第4回日遊協遊技産業新経営者会議(韓裕担当副会長、リーダー・西村拓郎東京都・関東支部長)が5月30日、東京・西新宿のハイアットリージェンシー東京で開かれた。ホール、メーカー、販社等会員企業の若手経営者・幹部30人が参加した。

大震災と原発事故に見舞われた福島県の復旧・復興を支援している「福島大学つくしまふくしま未来支援センター」特任研究員、開沼博氏が、「価値観消費の時代・福島学構築プロジェクトから」と題して講演した。

次いで日遊協専務理事、篠原弘志氏が「企業の危機管理について」と題して講演し、日本型危機管理に見られる問題点、業界の危

機管理で気のついたこと、危機管理のポイント等について述べた。

この後開かれた懇親会では、ふだん顔を合わせる機会がない同業他社や異業種の参加者同士が、名刺交換や歓談で熱心に人脈づくりに励んでいた。

その他の出席者は次の通り。

(順不同・敬称略、(株)有略)

榎本善紀(京楽産業)、林大統(ジヨイパッケレジャー)、岸野誠人(東和産業)、平本直樹(プローバ)、有川勝紀(ジーピーエム)、新富雅哉(新富商事)、新富和紀(同)、蒲裕二(ライズ)、深谷太詞(フシミコーポレーション)、神保重宏(名古屋商事)、山本利和(日進)、早川恭彦(愛和食品)、山田篤(九州エース電研)、庄司眞(ピーアークホールディングス)、宮本茂(メッセ)、東野昌一(平成観光)、趙頭沫(三慶商事)、山口拓馬(山口商事)、里見治紀(セガサミーホールディングス)、内ヶ島正規(高尾)、内田忠良(ウチダ)、松谷義明(ビクトリア観光)、寺内大貴(テラウチ)、増田光均(マンドレ)、金沢学模(三洋販売)、北川大樹(アクト)、實川裕一郎(マルハン)、都筑善雄(善都)